

# みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.18 令和3年2月18日

## ようすをあらわすことばを使って、三浦海岸を紹介 上宮田小学校2年生の取組

2月3日(水)、上宮田小学校で、みうら学研究会代表授業(国語)が行われました。授業者は、中村圭介先生でした。

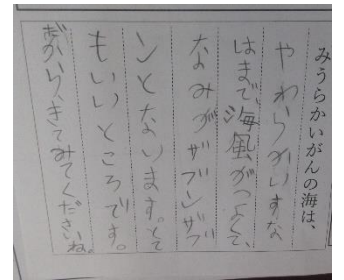
単元名は「ようすをあらわすことば」で、今日の授業は、「ようすをあらわすことばを使って、三浦海岸の海を表そう」という内容でした。

「砂浜」「海風」「波」の3つを取り上げ、それぞれの写真や映像を見た子どもたちは、「どのくらい」「オノマトペ」「たとえ」の3つを使って文章を作り、ワーク



シートに記入しました。それを、黒板の前に立って、全員が発表していきました。

最後に、今までの授業を踏まえて、ようすをあらわすことばを使って、三浦海岸を紹介する文章を作ることにチャレンジしました。(右の写真)



先生と児童が穏やかに授業を進めていたのが印象的でした。全員に、活躍の場が与えられたすてきな授業でした。授業後、子どもたちの感想に、「三浦の海っていいね」という声があったそうで、大変うれしく思いました。

隣の2年1組でも、同じテーマで国語の授業が行われ、左の写真のように、絵と文章で三浦海岸を紹介する取組をしていました。



## 海の生き物の不思議

### ① ナマコは、海底のそうじ屋さん

サンゴ礁に住むナマコは、海底の砂粒を食べ、その中に含まれる有機物(生物の破片、フン・死がいなど)や微生物を栄養にしています。

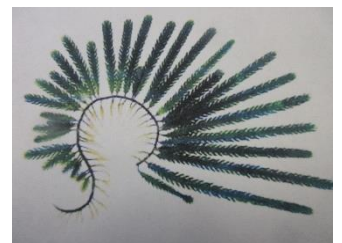
また、ナマコが体からアンモニアを排泄したり、海底の砂をかき混ぜたりすることで、砂の中の有機物の分解が早まり、リュウキュウスガモなどの植物の成長が早まる効果が知られています。

クロナマコなどいくつかの種類は、産卵して増える以外に、体を分裂させて増えることができます。

(国立研究開発法人 水産研究・教育機構発行 おさかな瓦版NO99の谷田巖さんの文章を引用させていただきました)

### ② 13,000kmのミステリー クロキツタの不思議

海藻は、根、茎、葉の区別がなく、体全体が葉のようなもので、水や養分を吸収する役目の“根”という器官を持っていません。養分が溶けた海水中で暮らす海藻は、全身で水や養分を吸収しているのです。



右の写真のクロキツタは、世界でも珍しく、紅海と日本の隠岐、四国の数か所で見つかっていません。この13,000kmも離れた紅海と隠岐の海にはどのような結びつきがあるのでしょうか。

(株)舵社 「ボート倶楽部」掲載の野田三千代先生の文章、写真を引用させていただきました。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、

学校教育課まで 882-1111 (内線428)